

1人1台端末を活用した授業改善

～「協働的な学び」「個別最適な学び」の実現を目指して～

1 研究主題設定の趣旨

「GIGAスクール構想」とは

- ・「日本のすべての小・中学校をインターネットの高速回線につないで、すべての児童生徒に1人1台のネットワーク型コンピュータを無償貸与するというICT環境の整備の施策」のこと
- ・「GIGA」(Global and Innovation Gateway for Allの略)は、「すべての人にグローバルで革新的な入口を」という意味で、「誰一人取り残すことなく子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性をはぐくむ教育ICT環境の実現」を目指す施策であるとされる。

「GIGAスクール構想」が導入された背景

- ・OECDによる2018年のPISA調査を受検した日本の高校生の順位が大幅に低下した。これに対し、文部科学省は「コンピュータ操作スキルの未成熟が読解力低下に影響した」という考察を出した。
- ・「GIGAスクール構想」自体は、2019年に政府から提案されたものだが、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置や家庭での在宅リモート学習の推進を受け、1人1台端末の貸与が前倒しになり、補正予算が組まれることによって、2021年3月内にすべての小・中学校に配布されることとなった。

上記の通り、GIGAスクール構想の前倒しを受け、1人1台端末が全国的に整備されることから、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す授業づくりが急務となっている。

本校では、昨年度12月に1人1台端末「Chromebook」が導入された。それ以前にも1人1台端末が配備されていたこともあり、児童にとって端末は非常に身近なものである。しかし、その機能の高さと多様さに影響され、「ただ端末を楽しく使って終わる授業」「どんなめあてを達成するのが不明確な授業」になってしまうことも少なくなかった。あくまでも目標を明確にし、より良い問いを考え、より良い場において端末を有効に活用することが大切である。

今回の研究では、キーワードとして「主体的・対話的で深い学び」を掲げ、「何を学ぶのか」だけでなく、「どのように学ぶか」について重視し、授業改善を行っていく。具体的には、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現に向け、「児童がインプットしたことをアウトプットし、学ぶことを楽しいと実感できる授業」「意欲的に学び続け、自分の得意を伸ばして不得意を補充することができる授業」について考えていく。今回の研究では、児童だけでなく、教師自身が「主体的・対話的で深い学び」ができるようにしたい。